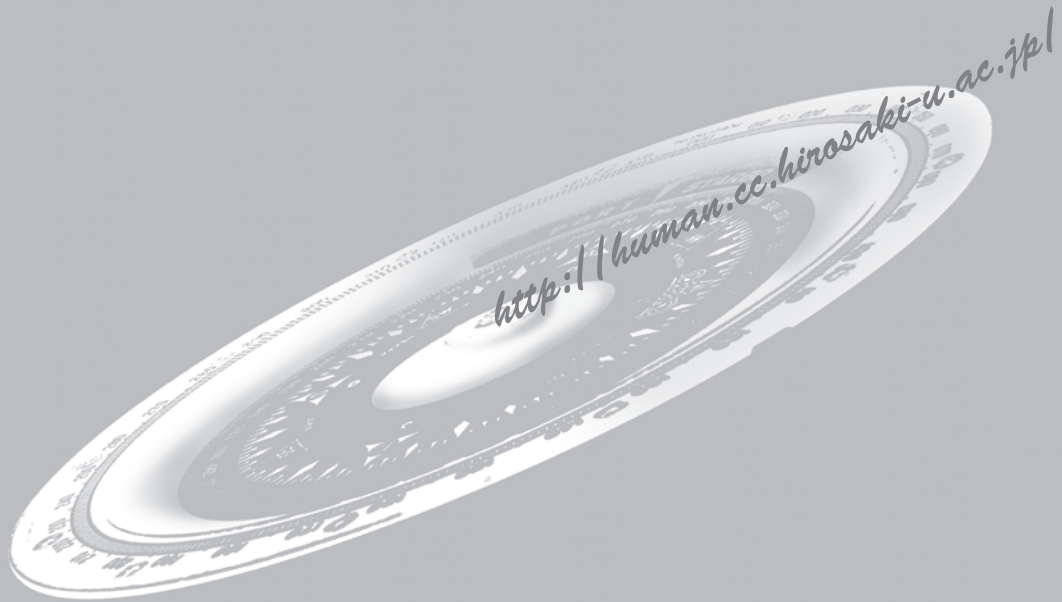


人文社会论丛

社会科学篇 第31号



弘前大学人文学部
2014

目 次

【論 文】

- 企業家行動と新しさゆえの脆弱性……………高 島 克 史 11
- 社会的協働に関する研究の動向……………大 倉 邦 夫 27
- 古典派経済学の普及過程に関するテキストマイニング分析
—リカード、ミル、マーティノーを中心に—……………下 平 裕 之
福 田 進 治 51
- 準市場の優劣論とイギリスの学校選択の質・応答性への効果
……………児 山 正 史 67
- マイクロデータ分析における調査ウェイトの補正効果
—社会生活基本調査・匿名データの利用に向けて—……………栗 原 由 紀 子
坂 田 幸 繁 93
- 上武鉄道の設立活動と鉄道実務者……………恩 田 睦 115

【翻 訳】

- 鉱業、化学、エネルギー産業労働組合第5回定期総会での
アンゲラ・メルケル連邦首相の講演（ハノーファー、2013年10月16日）
……………齋 藤 義 彦 131

【研究ノート】

- えちぜん鉄道に対する沿線自治体の支援
……………小 谷 田 文 彦
恩 田 睦
ビクター・カーペンター 143

【研究ノート】

- ポピュリズム・イデオロギーの動員力……………村 松 恵 二 1

弘前大学人文学部紀要『人文社会論叢』の刊行及び編集要項

平成23年1月19日教授会承認

平成24年2月22日最終改正

この要項は、弘前大学人文学部紀要『人文社会論叢』（以下「紀要」という。）の刊行及び編集に関して定めるものである。

- 1 紀要は、弘前大学人文学部（以下「本学部」という。）で行われた研究の成果を公表することを目的に刊行する。
- 2 発行は原則として、各年度の8月及び2月の年2回とする。
- 3 原稿の著者には、原則として、本学部の常勤教員が含まれていなければならない。
- 4 掲載順序など編集に関することは、すべて研究推進・評価委員会が決定する。
- 5 紀要本体の表紙、裏表紙、目次、奥付、別刷りの表紙については、様式を研究推進・評価委員会が決定する。また、これらの内容を研究推進・評価委員会が変更することがある。
- 6 投稿者は、研究推進・評価委員会が告知する「原稿募集のお知らせ」に記された執筆要領に従って原稿を作成し、投稿しなければならない。「原稿募集のお知らせ」の細目は研究推進・評価委員会が決定する。
- 7 論文等の校正は著者が行い、3校までとし、誤字及び脱字の修正に留める。
- 8 別刷りを希望する場合は、投稿の際に必要な部数を申し出なければならない。なお、経費は著者の負担とする。
- 9 紀要に掲載された論文等の著作権はその著者に帰属する。ただし、研究推進・評価委員会は、掲載された論文等を電子データ化し、本学部ホームページ等で公開することができるものとする。
- 10 紀要本体及び別刷りに関して、この要項に定められていない事項については、著者が原稿を投稿する前に研究推進・評価委員会に申し出て、協議すること。

附 記

この要項は、平成23年1月19日から実施する。

附 記

この要項は、平成23年4月20日から実施し、改正後の規定は、平成23年4月1日から適用する。

附 記

この要項は、平成24年2月22日から実施する。

執筆者紹介

- 高 島 克 史 (ビジネスマネジメント講座／経営管理)
大 倉 邦 夫 (ビジネスマネジメント講座／経営学)
下 平 裕 之 (山形大学人文学部 法経政策学科／経済学史)
福 田 進 治 (経済システム講座／経済学史)
児 山 正 史 (公共政策講座／行政学)
栗 原 由紀子 (情報行動講座／統計学)
坂 田 幸 繁 (中央大学経済学部／統計学)
恩 田 陸 (ビジネスマネジメント講座／経営史)
齋 藤 義 彦 (国際社会講座／現代ドイツ論)
小谷田 文 彦 (経済学システム講座／産業組織論)
ビクター・カーペンター (国際社会講座／国際政治)
村 松 恵 二 (公共政策講座／政治学)

編集委員 (五十音順)

◎委員長

足 達 薫
飯 考 行
飯 島 裕 胤
奥 野 浩 子
柴 田 英 樹
城 本 る み
須 藤 弘 敏
田 中 岩 男
◎長谷川 成 一
福 田 進 治
渡 辺 麻 里子

人文社会論叢(社会科学篇)
第31号

2014年2月28日

編 集 研究推進・評価委員会
発 行 弘前大学人文学部
036-8560 弘前市文京町一番地
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/>
印 刷 やまと印刷株式会社
036-8061 弘前市神田四-四-五

Studies in the Humanities

SOCIAL SCIENCES

Number 31

TAKASHIMA Katsushi ··· A direction of entrepreneurship research based on liability of newness ···········	11
Ohkura Kunio ········· The trend of research in social collaboration ·········	27
SHIMODAIRA Hiroyuki ··· Popularization of Classical Economics: FUKUDA Shinji Text-mining Analysis on David Ricardo, James Mill and Harriet Martineau ·········	51
KOYAMA Tadashi ······· Quasi-Market and School Choice in England: The Effect on the Quality and Responsiveness ·········	67
KURIHARA Yukiko ······· Adjusted Effects of Sampling Weights on Micro Data Analysis: SAKATA Yukishige Based on Anonymized Data of Time Use and Leisure Activities ·······	93
ONDA Mutsumi ········· The Senior Officials and the Establishment Activities of the Jobu Railway Company (Jobu Tetsudo Kabushiki Kaisha) ·······	115
SAITO Yoshihiko ······· Rede von Bundeskanzlerin Dr. Angela Merkel auf dem fünften Ordentlichen Kongress der IG BCE am 16. Oktober 2013 in Hannover ···	131
KOYATA Fumihiko ······· The public support of the local government ONDA Mutsumi that is along the line of the Echizen railroad ········· Victor Carpenter	143
MURAMATSU Keiji ······· Mobilisierungsmacht der populistischen Ideologie ·········	1

Faculty of Humanities
Hirosaki University
Hirosaki, Japan